

2024年3月

小牧市障害者団体連絡会通信

No.15

つながって → ひろげる

選挙に行こう！ 体験談を読んで

共同代表 山中和彦

2人の体験談を読んで

私のこの文章の後に、障害のある息子さんの投票体験を2人のお母さんが体験談として寄稿いただいています。ぜひお読みください。

それぞれすでに障害のある息子さんの選挙権行使について考え行動されていたのが、私たち障害者団体連絡会の取り組みに触れて、さらに一歩進んで行けたとのことで嬉しく思います。

障害者差別解消法を使って遠慮なく

障害者差別解消法に従えば、行政には、合理的配慮を提供しなければならないとの法的義務があります。合理的配慮は、①障害のある人(家族、支援者も可)から社会的障壁の排除の要請があったときに、②行政、事業者側に過重な負担がない範囲で必要な対応をすることを求めるものです。

この対応策を検討するために、「建設的対話」が求められています。建設的対話では、①「もし何かあったら」「安全のため」、②「特別扱いはできません」、③「前例がない」「マニュアルにない」は、行政側が言うてはならないNGワードだとされています。

特に、選挙のバリアフリーの場面では、③の「前例がない」「マニュアルにない」と言われてしまいそうです。ですので、私たちの活動は、マニュアル作りもターゲットに入れています。

障害者差別解消法では、合理的配慮の提供は行

政・事業所に義務づけられていますので、遠慮なく行政に要請していくことができます。

当事者の側から要請すること

合理的配慮の提供義務の場面では、当事者の側から要請することも大切な要素となっています。

一人ひとり障害の内容や必要な支援が違うから、個別に対応してもらう、その検討が必要なのです。

ということで、選挙のバリアフリーを障害者差別解消法の視点から見ると、当事者の側から働きかけることがスタートになるのです。お二人のご家族のように選挙管理委員会(市役所内)に事前に電話で相談をしたりすることも大切ですし、それがハードルが高いのなら、直接投票場に行ってみてその場でやりとりをするのもいいと思います。一人で進むのがハードルが高ければ、行政に直接ではなくても、身近な障害者団体、仲間と話し合っていくこともとても大切なことと思います。選挙のバリアフリーをひとつの取り組みとして、合理的配慮の提供を日常の当たり前にしていきたいものです。

選挙は、非日常だけれど

選挙は、どちらかというと非日常の話ですが、人権、民主主義に関わるものとして、行政や地域のみなさんが真剣に取り組まれるイベントでもあり、障

害のある人たちが合理的配慮の提供を求め、行政はきちんとそれに答えていただく場面として、私たちは、とても重要な機会ととらえています。

総務省も NHK も新聞社も、選挙のバリアフリーを取り上げる機会が増えていて、社会全体の関心が少しずつですが高まってきていると感じています。

この後も、来年の7月には参議院選挙、来年の10月には衆議院議員の任期満了など大きな選挙

が待ち構えています。私たちも、これらの機を逃さず、選挙のバリアフリーを着実に進めていく努力をしたいと考えています。

みなさんのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



体験談① <Sさんの母>

息子は23歳にして初めて投票をしました。これまで全く考えてこなかったのですが、今年(令和5年)の選挙で、初めて息子の選挙権について考えました。本人が「投票所で意思を示すこと」はできなくても、選挙権はあるのだから、自分が望む人に一票を託したいとの意思を汲んでもいいのではと考えました。

そこでこれまで調べたことのなかった知的障害のある人の投票について調べてみました。「NHK みんなの選挙」には、「投票所には介助者が入れること」、「係りの人に手助けを頼めること」、「投票にあたり自分で用意した候補者に関するメモを持参できること」が書かれていました。しかしその手順として「代理投票の希望を係りの人に伝える」とあったので、本人が伝えられなかったらダメなのでは？と心配になりました。そこで市役所に問い合わせたところ、本人が伝えられなくても大丈夫とのことで、息子が投票する会場へ、事前に連絡をしてくださいました。そして投票所では二人の係りの方に対応していただき、騒がしくも何とか投票できました。

その後しばらくして、「選挙のバリアフリーの取り組み」の講演会(小牧市障害者団体連絡会等)に参加しました。そこでは「選挙の能力と人権(選挙権)」について話されていて、知的障害者への

投票支援は広がりつつあるとのことでした。また東京都狛江市での知的障害者向け投票支援として、演説や選挙公報、政見放送動画などについて分かり易くする工夫や代理投票への取り組みについて話されていました。そして、代理投票を希望する意思表示のための用紙があり、投票には1ページ1候補者の選挙公報を家で選んで持参することも認められているとのことでした。

息子の場合、今年2回目の選挙では前回と同じように、あらかじめ本人に候補者の名前と代理投票したいという言葉を書いてもらい持参しました。今回確認すると事前連絡はしなくても各会場で代理投票の対応をしていただけるとのことでしたので、直接、人の少なさそうな日時を選んで期日前投票に行きました。本人としては、名前を書く、選挙に行く、投票するということはある程度理解しているのですが、会場までは静かに行ったものの係りの人にメモを渡した後は、頑張っている自分をアピールする気持ちや感情の高ぶりからか、今回も尻もちをついて見せたり「頑張った!」と言ったりしていました。慌てて対応すると逆効果なので淡々と「立とうね」と促し、一緒に投票箱に入れ、退席する時にもまた尻もちをつきつつ…、という感じでした。(人は少ないもののやはり、「他の人に迷惑をかけてはいけな

い」という思いや、周りの人に「何もそこまでして連れてこなくても」との印象を与えたのではないかという思いもありました。ただこれは投票に限らず、通院などいろんなイベント事で見せる姿です)

今回の投票では、お友だちの中でも、代理投票(選挙公報に丸をつけて車椅子のベルトに挟んでいき、投票用紙も自分の手に挟んで投票箱

を近くまで動かしてもらい投票)できたとの話を聞きました。このようなことはまだまだ知らない方、考えていてもどのように投票所へ向かうかなど個人個人いろんなハードルがあり行動に移せない方も見えると思います。小牧市障害者団体連絡会等では、今後「障害特性別投票支援マニュアル」を作られるそうなので、多くの人が選挙に行きやすくなるといいなと思います。

体験談② <Tさんの母>

うちの息子は21歳、今まで4回選挙に行っていますが、毎回白紙で投票するしか方法がなく、毎回これで本当にいいのか?もっといい方法はないかと思いながらの投票でした。

障害者団体連絡会の研修会に参加し、障害者支援法の施行で投票所での配慮もされるようになっていたり、ヘルパーさんとの投票もできることを知りました。また、代理投票もあるそうです。メモを書いて持って行っても良い、車イスで投票箱に入れられない場合、動かしても良いなど知らなかったことも色々聞いて、モヤモヤとしていた「白票でも大切な一票だ」という気持ちになれたことが一番良かったです。

実は、初めての選挙に行く前はとても悩みました。選挙管理委員会に連絡しても郵送投票をすすめられ、めんどろな手続きがあり、期日も迫ってくるし・・・、期日前投票は私と息子の予定が合わず。そんな悩みの日々を過ごしていたところ、ラジオ番組の中で選挙について「自分の考えと同じ候補者はなかなかいないので、一番ましな人を選ぶ感覚でいいのでは?」というような話をされていて、こんな風に考えても大丈夫なんだ!!とても気が楽になりました。

当日、散歩がてら内心ドキドキで会場へ。小学校の体育館(居住地校交流で何度も行っている)

の会場は、広いのに半分のスペースしか使われておらず、車イスはかなり邪魔になっていました。係りの方がボードを持って説明は全くなし。事前に意思の確認ができなければ白紙投票でもかまわないと伝えてあり、そのような投票になりました。

帰り際、知り合いの民生委員の方が来てくださり「〇〇君みたいな人が投票することはとても大事なことだよな!」と言ってくださり、うれしかったです。意外と呆気なく終わった初選挙でしたが、息子なりの義務を果たし、社会参加ができたと思っています。

そして、前回の市議会議員選挙(4回目の投票)では、代筆していただき、投票箱を息子の前に持ってきていただいて手を添えて投票できたことは、大きな自信につながり今までの積み重ねが実った主体的な選挙になりました。障害者団体連絡会で勉強していて良かったです。



小牧市難聴・中途失聴者協会

今冬は、暖かい日々が多かったですね。クリスマスやお正月・節分・立春と春もすぐそこです。

1月の「新年会」は、12月の「耳の不自由な方の交流会」で入会して下さった新しい方々と共に、それぞれに新年の抱負を語りゲームを楽しみました。2月は「こまき山体操」を講師を招き、ペットボトルを使って楽しく体を動かしました。ふれあいセンターでも体験できるそうなので、時間のある会員は参加できそうです。3月は「次年度計画の話し合い」をします。今年度以上に充実した計画をしたいと思います。

2月には毎年開催される「市長を囲む福祉団体懇談会」に副会長が出席しました。

新年会の抱負の中で「会を創立して何年になる?」「ちょっと待って、2005年の創立!」「え~20年?」。今年はより多くの方に「小牧市難聴・中途失聴者協会」を知っていただきたいと思います。

(古木)



ここばかりこまき

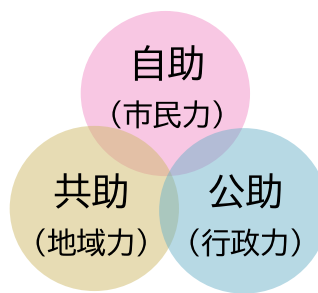
11月19日の災害研修以来、ここばかりは残念ながら集まれていません。

そんな中、2024年1月1日、能登半島地震が起きました。私たちの暮らす地域でもかなり揺れたので、不安な経験をしましたが、その後の報道を見ながら、悲惨な被害状況にあらためて災害の恐ろしさを感じています。

時々映し出されるご高齢の方の姿、環境の変化に不安な様子の障害のある方、不眠不休で、壊れた建物の中で介護を続けられている職員の方々…。そして、画面には映し出されていない様々な生活状況を想像すると、胸が苦しくなります。そして、あらためて私たちの地域にも必ず起こるであろう地震による災害に、

備えていかねばと思う新年です。

研修で学んだ「支援者も被災者」という現実を常に意識して、障害のある方やご家族も、今からできることを考えていきましょう。そして、支援者という立場の者としても、自分たちは何ができるのかをイメージして、様々な備えや準備をしていきましょう。ここばかりとしても、防災のことに引き続き取り組んでいけたらと思います。(御手洗)



小牧市肢体不自由児者父母の会

3月2日、愛知県肢体不自由児者父母の会連合会の理事研修会に参加してきました。厚労省の装具担当官の方を招いての研修会です。

『予算は私たちでは増やせないんです。皆さん、増額してください！』と言われますが、それを決めるのは厚労省ではないんです』と前置きがあり、ただ運用でなんとかなるものは、皆さんが利用しやすいものにするために、あえて、きっちりと決めないようになっています、と言うお話がありました、簡単に説明すると『キッチリ』と「コレとコレダケ」と決めてしまうと他は全てダメ！と言うことになってしまうので、あえてハッキリと文言にしないのだそうです。『ハッキリ書く』のは、実は運用する県市町村の方で決まります。

一例ですが、オムツは日常生活用具として排泄障害のある方に交付されますが、ウエットティッシュは認められない地区があります。「脱脂綿、さらし等」と決められているためです。ですが、これは厚労省で決めたことではないそうです。運用に辺り、『排泄に利用する物品』の中から県市町村で決めたもので、決められた物品として書かれると『ソレ』しか、認められないことになります。

皆さんの困り事が、少しでも『運用』（予算がかからない）の変更で解決できるものもあるので、一緒に考えてほしいとお話がありました。本当は、予算の拡充もしてほしいですが、現状難しいことはわかります。それでも、必要なことだと思います。知恵と工夫も凝らしながら、親亡き後、少しでも安心して生活できるように頑張りたいと思いました。（上田）



▲研修会では、各地で申請される装具の見積もり例を参考に、妥当な申請について考えました

こまき視覚障がい者の会

「アテンドナビ」完成に向けて

視覚障がい者の障がいは「情報障害」といわれています。日常にあふれている情報のほとんどが視覚障がい者に届かないものです。そのような情報格差を解決するために行政も試行錯誤しておられるようでしたが、実際のところ「どのようなものが視覚障がい者に届きやすいのか」を、聞いてくれることはありませんでした。

そこで今年度、市民活動助成金での事業の一つに、視覚障がい者に必要な情報だけをピックアップし、当事者がスマホから聞く「福祉ガイド」を作成することにしました。「とにかく始めてみよう、たたき台としてでも世に示せるものができればよいではないか？」という気持ちで、(株)コネクトドットの星野社長に協力を依頼しました。



▲3月9日に行ったアテンドナビ講習会には、35名が参加しました

理解してほしいと受け身になるばかりでは変革は進まないものでしょう。お互いに理解できないことを認めて、理解できるような材料をどんどん提供していくことができれば、視覚障がい者を取り巻く世界が変わっていくと思います。当事者の交流を促せるような魅力のある会であり、その中での毎月のイベントを開催していきたいと思えます。（水谷）



▲アテンドナビの使い方動画

小牧市おもちゃ図書館きらら

■1月21日(日) 勉強会 犬山市おもちゃ図書館『まごころ』

『きらら』と交流がしたいと言う有難い申し出があり、年が明けたこの日に『まごころ』のスタッフが素敵な木のおもちゃをたくさん携えて来てくれました。

活動形態はきららとは異なるところがありますが、子どもたちのことを思い、おもちゃを通して豊かな遊びを提供するという点で共感できるところがあり、大変勉強になりました。「まごころ」さんの熱い思い、前向きな姿勢を来年度からのきららに活かしていきたいと思いました。



▲木のおもちゃを手にして、感触や遊び方を確かめるボランティアたち

■2月18日(日)遊ぼう DAY 「ポッチャで遊ぼう」



▲ポッチャを楽しみに、参加してくれたお子さん

五輪ピックでも使われた本格的ポッチャのセットが借りられることになったので、みんなで体験してみようというワクワクの企画でした。当日は体調不良だったり予定が合わなかったりで、参加者は親子一組だけでしたが、有難いことに前述の『まごころ』さんも来てくださり笑顔の会になりました。ポッチャはとても奥が深いゲームで、高度な技術や戦略やチームワークが必要ですが、誰でもすぐに参加できるという面もあり、とても優れたものだわかりました。参加者の皆さんの温かさや柔軟さで、楽しい時間が持てました。来年度も楽しい企画を考えていきたいです。(船橋)

【会員を募集しています】

小牧市のさまざまな障害者当事者団体、支援者団体がつながって、いろいろな障害のある人の立場を互いに知りあい、共同して市民に向けて発信していくことで、障害のある人も誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくことを目的に活動しています。活動に賛同していただける団体、個人の方を募集しています。

■正会員(団体のみ 年会費 2,000 円) ■団体賛助会員(年会費 1,000 円) ■個人賛助会員(年会費 1,000 円)

※賛助会員は、活動への参加は難しいけれど趣旨に賛同し、イベントへの参加や活動の周知等を通じて応援して下さる会員です。議決権はありませんが、イベント等のご案内を差し上げます。申込みは下記メールアドレスへご連絡ください。

■小牧市障害者団体連絡会加入団体(50音順)：正会員(5) 賛助会員(5)

【正会員】ここぼりこまき、小牧市おもちゃ図書館きらら、こまき視覚障がい者の会、小牧市肢体不自由児者父母の会、小牧市難聴・中途失聴者協会

【賛助会員】小牧市聴覚障害者福祉協会、小牧おひさまクラブ、手話サークルおてだま、手話サークルふたば、全国障害者問題研究会小牧サークルかざぐるま

小牧市障害者団体連絡会通信 2024年3月発行
〒485-0811 小牧市光ヶ丘1-1 アクシス光ヶ丘4-403(山中)
【メール】 mail@komaki-sdr.sakura.ne.jp
【ホームページ】 http://komaki-sdr.sakura.ne.jp

※視覚障害のある方へ
ホームページに本通信の
テキスト版があります。

